

福祉保健生活環境委員会 県内所管事務調査の概要

【平成28年5月9日（月）】

◆調査箇所：タナベ環境工学株式会社（大分市高江西）

＜概要＞

県から「健康経営事業所」に認定されている建設コンサルタント業の「タナベ環境工学」では、健康診断受診率100%の達成や、昼休みウォーキングの実施、昼食時のヘルシー弁当の一括注文、うま塩レシピの情報提供など、社員の健康づくりや体力増進を通じた「健康経営」（従業員の健康支援を通じて会社の益を生もうとする経営方針）を目指し、積極的に取り組んでいる。



＜主な質疑等＞

- ・健康づくりの取り組みに対する社員のモチベーションについて
- ・企業経営上の健康づくりの取り組みのメリットについて

◆調査箇所：衛生環境研究センター

＜概要＞

衛生環境研究センターから、組織や施設の概況及び本委員会が所管する主要な事務（食品衛生・自然毒等に関する試験検査、感染症・食中毒等に関する微生物学的検査、大気汚染・ダイオキシン類・悪臭や環境放射能に関する測定・分析等、環境水・工場排水等に関する試験検査等）について説明を受けるとともに、センター屋上に設置されている大気環境中の放射線量を計測するモニタリングポストを調査した。



＜主な質疑等＞

- ・結核菌に係る研究の推進について
- ・大分市保健所との情報共有について

◆調査箇所：公立大学法人大分県立看護科学大学

＜概要＞

看護科学大学から、組織・職員の配置状況、大学の概要、卒業生の進路及び入学生の状況等について説明を受けた。

平成25年8月に文部科学省「地（知）の拠点事業」に採択され、隣接する富士見が丘団地で、学生が4年間継続して訪問し高齢者の機能低下を予防する「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」に取り組んでいる。



＜主な質疑等＞

- ・地域と連携した学生による予防的家庭訪問の手法について
- ・地震発生時の学生のケアについて

◆調査箇所：中部振興局、中部保健所、中部保健所由布保健部、食肉衛生検査所

<概要>

中部振興局、中部保健所、中部保健所由布保健部及び食肉衛生検査所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、特定家畜伝染病対策、健康寿命日本一に向けた取り組み、健康危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進、と畜場法に基づく獣畜の検査等）の概要及び熊本地震の被害に対する対応状況等について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・地震発生時の要援護者の支援について
- ・災害発生時の防災士のさらなる活用について

【平成28年5月19日（木）】

◆調査箇所：由布大気常時監視測定局

<概要>

大分市、衛生環境研究センター及び環境保全課が連携して構築している県内の大気汚染常時監視体制や光化学オキシダント・PM2.5などの観測状況について説明を受けるとともに、中部保健所由布保健部の敷地内に設置されている大気常時監視測定局を調査した。



<主な質疑等>

- ・大気監視測定局を由布市に設置した理由について
- ・PM2.5の注意喚起の基準について

◆調査箇所：九重町立このえみつばこども園（九重町引治）

<概要>

「このえみつばこども園」は、町立の幼稚園3園と保育所3園が統合され、幼保連携型認定こども園として平成28年4月に開園した。

敷地内には、子育ての相談指導や子育てサークルの支援などを行う「このえ子育て交流センター」が設置され、こども園と連携し、地域の育児支援を実施している。

広大な敷地に建てられた園舎の建設には、林業再生県産材利用促進事業が活用され、県産材がふんだんに使われている。



<主な質疑等>

- ・保育士・幼稚園教諭の免許の更新について
- ・町内の小学校との交流・連携について

◆調査箇所：大分県日田はぎの園（日田市石井）

<概要>

障害者支援施設「大分県日田はぎの園」は、昭和58年度に県が設置し社会福祉法人大分県社会福祉事業団に移管し運営しているが、施設の老朽化に伴って平成28年3月に現在の場所に改築・移転した。

平成27年からは、生活困窮者自立支援法の一時生活支援事業を開始したほか、今年度からは県母子寡婦連合会と連携し、施設の一部を活用し食事の提供や学習支援を行う「ひとり親家庭の子どもの居場所づくり事業」に取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・大分県社会福祉事業団の施設整備について
- ・はぎの園における生活困窮者対策について

◆調査箇所：西部振興局、西部保健所

<概要>

西部振興局及び西部保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、特定家畜伝染病対策、健康寿命日本一に向けた取り組み、健康危機管理機能の充実、おおいとうつくし作戦の推進等）の概要及び熊本地震の被害に対する対応状況等について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・地震の際のペットの同行避難について
- ・九重町の合計特殊出生率・平均寿命・健康寿命の高さについて

【平成28年5月20日（金）】

◆調査箇所：中津市森山健康クラブ（中津市三光森山）

<概要>

健康寿命の短縮、寝たきりや要介護状態の3大要因の1つである「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」予防のため、中津市では住民が主体となった健康づくり・介護予防に取り組んでいる。

中津市三光森山地区では、平成27年度に住民自ら運営する「森山健康クラブ」を中津市内で先んじて立ち上げ、介護予防体操（めじろん元気アップ体操等）を毎週継続して実施している。



<主な質疑等>

- ・健康クラブの立ち上げについて
- ・市内他地区への波及について

◆調査箇所：中津市消防本部東部出張所（中津市三光下秣）

<概要>

「中津市消防本部東部出張所」は、中津市内東部地域及び全線開通した東九州自動車道の消防・救急の拠点として平成27年3月に完成した。

当施設は、防災拠点としての役割を果たすため、「防災拠点再生可能エネルギー導入事業」を活用し、災害時にも稼働できるように太陽光発電システム及びリチウムイオン蓄電池による非常用電源を整備した。



<主な質疑等>

- ・太陽光発電施設のメンテナンスについて
- ・他の消防施設への太陽光発電施設の導入方針について

◆調査箇所：北部振興局、中津児童相談所、北部保健所、北部保健所豊後高田保健部

<概要>

北部振興局、中津児童相談所、北部保健所及び北部保健所豊後高田保健部から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、特定家畜伝染病対策、児童に関する相談、児童の一時保護、健康寿命日本一に向けた取り組み、健康危機管理機能の充実、おおいとうつくし作戦の推進等）の概要について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・管内交通事故死亡者数減少の要因について
- ・児童相談所とスクールソーシャルワーカーとの連携について

【平成28年5月23日（月）】

◆調査箇所：こども・女性相談支援センター、こころとからだの相談支援センター

<概要>

こども・女性相談支援センター及びこころとからだの相談支援センターから、組織・職員の配置状況、管内の概況及び本委員会が所管する主要な事務（児童虐待・非行等の相談・支援、里親委託の推進、DVに係る相談対応、障がい者に関する相談、こころの緊急支援活動等）の概要について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・療育手帳返還の理由について
- ・児童虐待通報に係る保護者への対応について

◆調査箇所：消防学校

<概要>

消防学校から、組織・職員の配置状況、施設の概況及び本委員会が所管する主要な事務（消防職員・消防団員に対する基礎的な教育訓練や専門的な教育訓練、消防職員・消防団員幹部に対する教育訓練などの実績・計画等）の概要について説明を受けるとともに、新たに採用された消防職員の初任教育訓練を調査した。



<主な質疑等>

- ・無線資格の取得について
- ・学校施設の老朽化について

◆調査箇所：県立病院

<概要>

県立病院から、組織・職員の配置状況、医療提供体制及び経営状況等について説明を受けるとともに、患者への情報提供のため新たに設置したデジタルサイネージや、平成28年4月に完成した増築棟及び敷地内の精神科建設候補地を調査した。



<主な質疑等>

- ・障がい者の歯科・口腔外科の診療体制について
- ・ジェネリック医薬品の使用状況について

◆調査箇所：消費生活・男女共同参画プラザ

<概要>

消費生活・男女共同参画プラザから、組織・職員の配置状況及び本委員会が所管する主要な事務（消費生活に関する啓発・相談、男女共同参画の推進、NPO・ボランティア活動の振興ほか）の概要や平成28年4月に開設されたおおいた性暴力救援センターすみれの運営について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・女性の指導的立場への登用について
- ・市町村の消費生活相談の受付体制について

【平成28年5月26日（木）】

◆調査箇所：住吉浜リゾートパーク（杵築市守江）

＜概要＞

県民に古くから親しまれているリゾート施設「住吉浜リゾートパーク」は、社会福祉法人博愛会が運営しており杵築市内初の就労継続支援A型事業所（B型、就労移行支援もあり）として障がい者の貴重な就労場所となっている。

利用者は広大な園内に点在する各施設において、ホテル客室のメンテナンス、レストランやビーチ清掃、パン製造、いちご園の管理など幅広い業務に従事している。



＜主な質疑等＞

- ・利用者の作業内容について
- ・支援学校からの職業訓練の受け入れ状況について

◆調査箇所：東部振興局、東部保健所、東部保健所国東保健部

＜概要＞

東部振興局、東部保健所及び東部保健所国東保健部から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全、健康寿命日本一に向けた取り組み、健康危機管理機能の充実、おおいとうつくし作戦の推進等）の概要及び熊本地震の被害に対する対応状況等について、調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・健康寿命と本県独自の「お達者年齢」の統計上の違いについて
- ・県と市町村の保健師の連携について

◆調査箇所：大分県溪泉寮 けいせんプラザ（日出町藤原）

＜概要＞

「けいせんプラザ」は、社会福祉法人大分県社会福祉事業団が救護施設「大分県溪泉寮」内に平成27年12月に設置した宿泊型福祉施設であり、福祉3法（生活困窮者自立支援法、生活保護法、障害者総合支援法）の対象者等のセーフティネットとして、住と食のサービスを提供するとともに、就労準備支援などを実施している。



＜主な質疑等＞

- ・けいせんプラザ整備の経緯について
- ・溪泉寮の入所待機者について

◆調査箇所：児童養護施設 光の園（別府市荘園）

<概要>

「社会福祉法人別府光の園」では、身寄りのない児童や虐待などで養育環境が整っていない児童が入所する児童養護施設や障がいのある卒園者が生活するグループホームのほか、地域に開かれた児童館、保育所、放課後児童クラブを運営するなど総合的な事業展開を行っており、地域の子育て支援拠点として重要な役割を担っている。



<主な質疑等>

- ・知的障がいのある子どもへの対応について
- ・併設している保育所、放課後児童クラブの運営について

【平成28年5月31日（火）】

◆調査箇所：暮らしのサポートセンター・竹田南部「あけぼの」（竹田市神原）

<概要>

竹田市や社会福祉協議会、医師会、商工会議所等により構成される「竹田市経済活性化促進協議会」と地域住民が連携し、簡易な自宅の修繕や草刈り、買い物代行など、元気な高齢者が「ちょっと困り」を解決する生活有償支援サービスの担い手となり、高齢者同士で支え合う互助のしくみを構築するとともに、健康体操や工芸品づくりなど様々な活動を行って会員の交流を深める「広場」を開催している。



<主な質疑等>

- ・生活支援サービスのマッチングについて
- ・住民へのセンター立ち上げ時の周知方法について

◆調査箇所：豊肥振興局、豊肥保健所

<概要>

豊肥振興局及び豊肥保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、青少年の健全育成、健康寿命日本一に向けた取り組み、健康危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進等）の概要及び熊本地震の被害に対する対応状況等について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・南阿蘇村災害ボランティアセンター竹田ベースキャンプへの支援について
- ・一人暮らし高齢者の病院、施設からの退院、退所後の対応について

◆調査箇所：竹田市南稲葉地区 小規模給水施設（竹田市久住町白丹）

<概要>

南稲葉地区の給水施設は送配水管の老朽化が進行していたほか、水源から各家庭に配水する配水池が崖下であり、崩落の危険があったため、「小規模給水施設普及支援事業」を活用し、送配水管の敷設替えを行うとともに、配水池を集落近くに移設することで、地域住民の管理等の負担が大きく軽減された。



<主な質疑等>

- ・小規模給水施設の維持管理体制について
- ・竹田市全体の事業ニーズについて

◆調査箇所：学校法人稲葉学園 竹田南高等学校

<概要>

竹田南高校は、不登校生徒や発達に特性のある生徒などを県内のみならず全国各地から受け入れ、学校生活や寮生活を通じて、社会でよりよく生きることができるよう、特色ある教育を行っている。

同校では、「私立学校施設耐震化促進事業」を活用し、普通教室棟や体育館などの耐震補強を実施した。



<主な質疑等>

- ・資格取得に向けた指導体制について
- ・保護者、生徒の学校生活満足度について

【平成28年6月1日（水）】

◆調査箇所：防災航空隊

<概要>

防災航空隊から、組織・職員の配置状況、本委員会が所管する主要な事務の概要及び熊本地震の際の対応状況等について説明を受けるとともに、防災ヘリコプターの機体及び装備品等について調査した。



<主な質疑等>

- ・林野火災時における自衛隊との連携について
- ・防災ヘリコプターの県外応援時の活動について
- ・防災ヘリ更新後の現行機の処分について

◆調査箇所：南部振興局、南部保健所

<概要>

南部振興局及び南部保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、ユネスコエコパーク、健康寿命日本一に向けた取り組み、健康危機管理機能の充実、おおいとうつくし作戦の推進等）の概要について、調査を行った。



<主な質疑等>

- ・衛星携帯電話を使用した通話訓練について
- ・健康寿命の延伸に向けた取り組みについて

◆調査箇所：地域包括ケアセンター 佐伯の太陽（佐伯市駅前）

<概要>

「佐伯の太陽」は、認知症高齢者グループホーム、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所、デイケア、サービス付き高齢者向け住宅、診療所等が併設された複合型施設であり、平成27年6月に開設された。

現在、サービス付き高齢者向け住宅の入居者に限定されている24時間対応の定期巡回型訪問介護・介護については、将来的に市内中心部に拡大することを考えている。



<主な質疑等>

- ・24時間対応の定期巡回型訪問介護・介護の体制について
- ・南海トラフ地震を想定した避難訓練の実施について

◆調査箇所：二豊学園

<概要>

二豊学園から、組織・職員の配置状況、学園の設備や運営の概要（児童の生活態度・入退所の経路及びその理由、支援の概要、退所児童の状況等）について説明を受けるとともに、寮舎の施設・設備を調査した。



<主な質疑等>

- ・専門性を持った職員の確保について
- ・学園退所後のフォローアップについて